

主題	デイサービスの環境づくり
副題	ご利用者の自立支援につなげる取り組み

環境改善	自立支援
------	------

研究期間	24ヶ月	事業所	デイサービスセンター マザアス氷川台
------	------	-----	--------------------

発表者：大野智美（おおのともみ）	アドバイザー：
------------------	---------

共同研究者：山口圭司 河野麻央 副島明子 鈴木輝光

電 話	042-477-7263	メール	hikawadai-ds@moth.or.jp
FAX	042-477-7500	URL	http://www.moth.or.jp/

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都東久留米市内にあるデイサービスセンター・マザアス氷川台は一般型デイサービス定員50名の大規模型通所介護事業所です。 ご利用者のニーズに応え、今年度から利用時間拡大サービスの実施、趣味活動の多様化に取り組んでいます。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

○状況

運営開始から18年が経過し、床(カーペット)や天井・壁の汚れやひび割れが目立つようになり、ご利用者から床の汚れなどを指摘される事が多くなってきていた。

デイルーム内の棚などの配置・環境がご利用者の出来ることまで職員が行ってしまう状態を作り、自立支援の妨げになっていた。

○課題

- 1・床材がカーペットのため食べこぼしなどの汚れが落ちないままで清潔感がない。
- 2・棚などの配置やデイルーム内に物が溢れご利用者のご自分で動きやすい導線が確保出来ていない。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

設備を新しくするだけでなく、棚の配置などの環境を変え、ご利用者が動きやすい導線を確保することで、ご自分で上着をハンガーにかけ、手荷物をロッカーに入れるなど自立支援につなげる事を目指した。

さらに自立支援の取り組みを続けることで職員が声をかけ行っている日中の塗り絵や脳トレなどの作業提供をご利用者が自ら選び、必要な道具を準備して作業に取り組むようになるなど、ご利用者が主体となって活動していただけるようなデイサービスになっていくこと目標とする。

《3. 具体的な取り組みの内容》

○取り組んだ期間は 2011 年～2013 年 2 月。

○ご利用者の自立支援につながる環境づくりを行うため、認知症高齢者への環境支援指針(P E A P)を活用し P E A P の 6 つのステップに沿ってデイルームの環境改善に取り組んだ。

○環境の点検を行うため、職員一人一人がデイルームの環境で良いと思うところや、悪いと思うところを写真に撮り、持ち寄って意見を出し合い、ご利用者にデイルーム環境についてのアンケートを行って、実際に利用されている立場から見える環境の問題点を探った。

○床の張り替えを行う。

○棚などの配置変更。

○デイルームに大型 T V を設置。

○ご利用者が自由に憩い交流することが出来る談話室を設置。

○有料プログラムの導入。

《4. 取り組みの結果と考察》

○職員各自が「床が汚い」「物が溢れていて雑然としている」など環境に関する意見を漠然と持っていたが、P E A P を活用することにより、環境を改善するための道筋がより明確になった。その為、職員全体にデイルームの環境における課題を共有する事ができた。

○ご利用者にアンケートを行ったことにより、職員だけでは気づかない点に気づかされた。例えば、床材に関して職員はフローリングが良いと考えていたが、ご利用者の中には汚れやすい素材ではあるが絨毯のような高級感のあるものが良いという意見もあった。立場の違いなどにより、意見が違ふ事を改めて気づかされた。

《5. まとめ、結論》

○限られた広さのデイルームの中でご利用者の動きを想定し、棚などの配置を変え、既存のスペースを活用したことにより、ご利用者が自ら動く広い導線が確保された。その結果、一日を通してご利用者がご自分で歩く機会が増え日常生活のなかで身体機能の回復を行う生活リハビリへの取り組みの機会ができた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご利用者の写真や動画は本研究発表以外では使用しないことをご家族に口頭にて確認し、了解を得た。

《8. 提案と発信》

自立支援の取り組みを今後も継続しデイサービスに通うことで生活リハビリの機会になるような仕掛けづくりをこれからも行っていきたいと思います。

【メモ欄】